

## 2学期もよろしくお願いたします！

9月も下旬を迎え、各学校におかれましては2学期の教育活動推進にご尽力されていることと思います。また、7～9月にかけて各学校で行われた宿泊研修や修学旅行という大きな行事も無事に終えることができ、ほっと一息ついていることと思います。

昨年より「ゆっくるも」に通級していたけれど、最近ようやく学校にも行けるようになって「ゆっくるも」に来なくなった子どもがいるのですが、先日その子の担任の先生から、「〇〇さん、修学旅行の全日程に参加することができましたよ。」という報告を戴きました。私たちも「〇〇さん、修学旅行に参加できたかな？」と気にしていたところだったので、学校側からお知らせしてくれたことがとてもうれしかったです。また、先生のお話から、〇〇さんがみんなと一緒に修学旅行に参加できるようになるための学校側の様々な配慮と、きめ細やかな支援体制が伝わりました。今回の修学旅行に参加できたことが自信となって、〇〇さんのこれからの学校生活がますます実りあるものになってほしいものです。



「ゆっくるも」に通級している子どもたちの中には、残念ながら宿泊研修や修学旅行に参加できなかった子どももいました。今回宿泊研修や修学旅行に参加できなかった子どもには、この次の行事には少しでも関わって、「行事に参加できた！」という自信につなげられるよう、「ゆっくるも」でも支援していきます。

### 留萌市教育支援センター「ゆっくるも」在籍児童生徒数

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
男		1					1	2	1	5
女				1		1		2	2	6
計	0	1	0	1	0	1	1	4	3	11

R7. 9. 19現在

# 次へのステップにつながるサポートルームに！

「ゆっくるも」に通級している子どもの中には、別室登校にチャレンジしながら、少しずつ登校日数を増やしている子どももいます。その子たちの別室登校については、初めのうちは私たち指導員も一緒に学校に行って、早く学校に慣れることができるよう支援をしているところです。

また、各学校においても、久しぶりに登校する子どもに対して、優しく声をかけてくれるなど、いつも温かく迎えてくれています。先生方の温かい対応で、緊張していた子どもの顔が少しずつ緩んでくる様子を何度も見えています。

昨年度から留萌中学校では校内教育支援センター「プラスワンルーム」を設置し、学校には行けるけれど教室には入ることができない子どもたちのサポートルームとして運営しています。そのほかの学校においても、空き教室や特別教室等を利用して、教室に入れない子どもたちのためのサポートルームづくりを進められていて、様々な工夫がなされていることに頭が下がる思いです。

こうしたサポートルームにおいて一番大切なことは、その場所が子どもたちにとって安全・安心な居場所であるということ、そして、子どもが居やすい工夫がされていることだと思います。久しぶりに学校に行く子にとっては、他の子どもたちとまだ会うことができない子も多いはず。自分が望まなければ、他の子どもたちとの接触は避けられるという場所でなければいけません。また、自分はそこに居てもいいんだという安心感を与えてくれる場所でなくてもいいかもしれません。

あと、もう一つ大切なこととして、子どもを受け入れてくれる先生方の対応の仕方もとても重要です。久しぶりに学校に来た時に先生たちが笑顔で迎えてくれたり、やさしく話しかけてくれたりすることで、自分のことを「気にかけてくれている」というメッセージとなります。こうした丁寧な支援の継続が、子どもの自己肯定感の向上につながり、次のステップへ進むためのきっかけになるはずです。

サポートルームは、教室に入れない子どもたちの「学習の場」ではありますが、そこで過ごす子どもが安心して過ごせる場所、先生や他の子たちとコミュニケーションができる場所、それらを通じて自己肯定感を高めていく場所となります。学校に行けるようになること、サポートルームに行けるようになることが目標ではなく、そこを通じて、次へのステップ（学級に入ること）につながる重要な場所であることを私たちも肝に銘じながら子どもたちの支援にあたりたいと思います。

■ 学校に行きたくても行けない子ども  
たちのことについて、教育支援センター  
「ゆっくるも」にいつでもご相談ください。

(TEL 090-9005-5338)

